

科目名	神経障害理学療法学演習	担当教員	久保田 健太※ ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	-------------	------	-----------------------------

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	3年次	前期	1単位	演習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR31DE	②、④					

科目概要	「神経障害理学療法学」で学習したことを基に、脳卒中や神経筋疾患、脊髄損傷に対する疾患特異的な理学療法評価を学習する。また評価学などで学んだROMテストやMMTなどの基礎的評価に関しても、神経疾患障害者にどう応用させていくかも学習する。基本的には、臨床での実際と机上での学習の橋渡しとして、症例ビデオを用いたケーススタディを行い、個々の検査結果を統合解釈する過程を通して、問題解決能力の向上を目的に演習を行う。
学習目標	① 神経疾患に対する評価を抽出することができる。 ② 評価結果を統合解釈し、問題点を抽出することができる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	演習 1	オリエンテーション	神経障害理学療法学演習で行う、神経障害に対する理学療法評価の流れを理解する。	久保田
2	演習 2	動作分析	ケーススタディの事前準備としてビデオを用いた動作分析を行い、動作分析の習熟度をあげる。	久保田
3	演習 3	動作分析	ケーススタディの事前準備としてビデオを用いた動作分析を行い、動作分析の習熟度をあげる。	久保田
4	演習 4	動作分析	ケーススタディの事前準備としてビデオを用いた動作分析を行い、動作分析の習熟度をあげる。	久保田
5	演習 5	動作分析	ケーススタディの事前準備としてビデオを用いた動作分析を行い、動作分析の習熟度をあげる。	久保田
6	演習 6	ケーススタディ	症例を用いたケーススタディにて、実際の神経疾患に対する理学療法の流れや考え方を学習する。	久保田
7	演習 7	ケーススタディ	症例を用いたケーススタディにて、実際の神経疾患に対する理学療法の流れや考え方を学習する。	久保田
8	演習 8	ケーススタディ	症例を用いたケーススタディにて、実際の神経疾患に対する理学療法の流れや考え方を学習する。	久保田
9	演習 9	ケーススタディ	症例を用いたケーススタディにて、実際の神経疾患に対する理学療法の流れや考え方を学習する。	久保田
10	演習 10	ケーススタディ	症例を用いたケーススタディにて、実際の神経疾患に対する理学療法の流れや考え方を学習する。	久保田
11	演習 11	ケーススタディ	症例を用いたケーススタディにて、実際の神経疾患に対する理学療法の流れや考え方を学習する。	久保田
12	演習 12	ケーススタディ	症例を用いたケーススタディにて、実際の神経疾患に対する理学療法の流れや考え方を学習する。	久保田
13	演習 13	ケーススタディ	症例を用いたケーススタディにて、実際の神経疾患に対する理学療法の流れや考え方を学習する。	久保田

14	演習 14	ケーススタディ	症例を用いたケーススタディにて、実際の神経疾患に対する理学療法の流れや考え方を学習する。	久保田
15	演習 15	ケーススタディ 1	症例を用いたケーススタディにて、実際の神経疾患に対する理学療法の流れや考え方を学習する。	久保田
<b>評価方法</b>		筆記試験(100%)		
<b>課題に対するフィードバック</b>		講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。		
<b>教科図書</b>		潮見泰藏・著『ビジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション-カラー写真でわかるリハの根拠と手技のコツ-』羊土社、2012年		
<b>参考図書</b>		福井國彦・著『脳卒中最前線』医歯薬出版、2003年 伊藤利之、江藤文夫・編『新版日常生活活動 (ADL) -評価と支援の実際-』医歯薬出版、2010年		
<b>学習の準備</b>		グループで講義一回につき、復習 (45分) をしっかりすること		
<b>オフィスアワー</b>		月曜日 13:00~14:30、その他在室時はいつでも可		
<b>担当教員欄に※印を付した教員の 実務経験</b>		久保田健太は、民間病院で脳卒中や神経筋疾患、脊髄損傷分野における理学療法の勤務経験を有しており、その経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。		